

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2022年5月16日】第123号



短期留学説明会

本校では、入学式の翌日から毎日、英語の授業があります。授業に真剣に取り組み、毎日の復習を欠かさない子どもたちも多く、努力する子どもたちの英語力はしっかりとついてきています。そこで、5年生に進級する直前の春休み、希望者を対象としたオーストラリアへの短期留学を計画し、準備を進めてきました。

5月12日(木)、現地の受け入れ機関であるオーストラリア キーンズランド州政府教育機関 Education Queensland International(EQI)のMichelle Cowell部長に、EQIによる短期留学プログラムについてご説明をいただきました。プログラムの目的、現地小学生との交流、遠足、ホームステイ、そして短期留学中の安全の確保など、詳しい説明があり、楽しそうな様子を画像で見ることでもできました。子どもたちが海外に行き、2人1組でホームステイをするのですから、信頼できるプログラムであることが第一です。現地責任者であるCowell部長からのご説明は、保護者の皆様の理解を深めるのに大いに役立ったことでしょう。

現4年生の保護者を主な対象としてオーストラリアと日本を結んだオンライン説明会でしたが、低学年の保護者のご参加も多く、関心の高さがうかがわれました。また、短期留学においては、英語の能力だけでなく、様々なことを学ぼう、体験しようとする主体性、新しい環境に適應できる柔軟性や自律性、一緒に旅行する友だちや、現地の小学生などとも仲良く過ごせる社会性なども必要です。子どもたちの一層の成長が、期待されます。

5月の昆虫標本

10連休が終わってすぐ、(一財)進化生物学研究所から南アメリカのカブトムシ標本2箱をお届けいただきました。巨大なカブトムシです。早速、子どもたちが関心をもって、見入っていました。

農大稲花小では、(一財)進化生物学研究所から月替わりで貸与していただく昆虫標本を図書室前に展示しています。美しい昆虫、大きな昆虫、同じ種類でもそれぞれに模様が違う昆虫…。その多様性には驚くばかりです。子どもたちにも、昆虫を見る眼を養ってほしいと思っています。



給食で学ぶ

学校内の給食室で調理する本校の給食、毎日、食材などの解説もあり、大切な食育の機会となっています。上級生に配膳を手伝ってもらってきた1年生ですが、先週からはいよいよ自分たちで配膳です。今のところ、順調のようです。

食事を摂るときの姿勢やマナーとともに、給食当番の身支度がきちんとできるかどうか、よそったり、運んだりする配膳が適切にできるかどうかは、日ごろの家庭での指導が大きく影響します。入学試験の事前面接では、お手伝いとして「お膳立てをします」「片づけをします」「お皿を拭きます」などと言う小さな子どもたちが多かったのですが、入学してからはどうでしょうか。ご家庭でもきちんとお手伝いをさせ、家族揃って美しい姿で食事を摂るように、引き続きのご指導をお願いします。

先週、子どもたちは手話での「いただきます」を学びました。一度だけですと忘れてしまいます。身に付くように折々、手話での「いただきます」もいかがでしょうか。

イネの種まき

5月13日(金)、1年2組の稲花タイムでは、東京農業大学国際農業開発学科教授の入江憲治先生に、稲の種まきをご指導いただきました。最初に世界の様々なイネや田んぼのお話をパワーポイントを使って教えていただきました。大人が肩まで水に浸かっている深い田んぼには、びっくりした声もあがりました。

持参したペットボトルに土と肥料を入れ、土を少し濡らした後、指で穴を開け、そこに浸漬した種もみを播きます。数粒の種もみからできる苗からは、お茶碗半分くらいのお米がとれるそうです。お茶碗一杯のためには、ペットボトル2つ分の苗が必要だと知り、ご飯を毎日食べるためには、たくさんの苗がいることも、わかったようです。

当日は、入江先生とともに大学院生が2人、お手伝いにきてくれました。1年生は大学院のお兄さん、お姉さんにも興味津々。とくに、ケニアからの留学生には、英語で名前を聞こうとがんばったり、逆に名前を留学生に聞かれたりと、積極的に話しかける子どもが多いのも、うれしいことでした。

1年生は今月20日(金)に、横浜市青葉区でお借りしている「田奈の田んぼ」へと田植えに行きます。楽しみです。



学校説明会

5月13日(金)の夕方、そして14日(土)の午前中には2回、オンラインによる第2回学校説明会を行いました。農大稲花小の受験をお考えのご家庭向けに、それぞれ1時間程度、学校のご紹介をさせていただきました。

学校説明会では本校設立の趣旨、教育理念、教育指針などをお話します。私立小学校受験においては、学校の教育理念と、各ご家庭の教育の方針が一致していることが大切だからです。同時に校長にとっては、日ごろからの学校づくりを振り返るよい機会にもなっています。

たくさんの方に参加していただいたことに感謝するとともに、秋の入学試験を安全に公平に、適切に実施できるよう準備をする決意を新たにいたしました。

東京農業大学稲花小学校
校長 夏秋 啓子